近藤琉唯斗くん夢のプロ選手へ

学道一如

発行
小樽双葉高校
新聞部
2026年10月26日
第39号

オリックスが４位指名

10月22日、プロ野球のドラフト会議が開催され、近藤琉唯斗くん（3−4、左写真）がオリックス・バファローズから４順目の指名を受け、プロ野球選手として契約する道が開かれた。指名の瞬間、近藤くんの目には涙が光り、周囲からは祝福の歓声が上がった。当日は各テレビ局、新聞社が中継や取材に来ており、記者会見も行われた。



指名後、野球部員に胴上げされる





合同記者会見に臨む



目指すは「奪三振王」

驚きから歓喜へ

近藤くんはアナウンサーのインタビューに「呼ばれると思っていなかったので…」と涙をぬぐい語った。また、「オリックスには素晴らしい投手陣が揃っているので、学びたい。」「投手として前人未踏の記録に挑戦したい」と意気込みを語った。

これまで投球方法の手本としてきたのは佐々木朗希投手（ドジャース）。「目標ではあるが、超えたい」という。

本校初のプロ野球選手になる。「うれしい。恥じないように頑張りたい」と述べた。

オリックスはパリーグのチームなので、将来、エスコンフィールドで日本ハムとの対戦で登板することもある。「一八四センチの長身を活かしたストレートを武器に」活躍することを誓っている。

一五〇キロ台の約束実現

記者会見で長谷川倫樹監督は近藤くんについて「三年間で非常に成長した。入学当初、ウエイトトレーニングをする姿を見て、「一五〇キロを目標に」と声を掛けた。その目標を達成する努力を重ね、プロ野球選手になるという夢を叶えたことがうれしい。今後のプレーを楽しみにしている。将来、日の丸を背負いＷＢＣで投げる姿を見たい」とエールを送った。



笑顔で祝福する3年生野球部員

活躍して恩返しを

会見で近藤くんは小さい頃からの夢を実現させることができた喜びを語り、さらに、両親、監督らへの感謝の言葉を述べた。「辛いときもずっと寄り添ってくれた。これからは良い成績を残し、応援される選手になり、恩返ししたい」と語った。

球種が豊富、頼れる投手

バッテリーを組んでいた鶴來莉玖くんは近藤くんの投球について「直球だけでなく、カーブ、スライダー、スプリット、ツーシームなどの変化球を自由自在に完成度高く放り、試合における配球の引き出しがすごく多い頼もしいピッチャー」と語り、自分が受けていたことを誇れる投手になってほしいと述べた。

オリックス・バファローズ

【球団の歴史】

- 阪急軍（1936年 − 1946年）
- 阪急ブレーブス（1947年 − 1988年）
- オリックス・ブレーブス（1989年 − 1990年）
- オリックス・ブルーウェーブ（1991年 − 2004年）
- 大阪近鉄バファローズを吸収合併
  オリックス・バファローズ（2005年 − 現在）

【監督】

監督は2025年から岸田護（きしだまもる）氏。元プロ野球投手。投手陣の育成や戦略面での指導に定評がある。

【成績】

今季、パリーグ6球団中、4位。
2023年リーグ優勝。2022年日本一。

【本拠地】

本拠地は京セラドーム大阪（上写真）で、公式戦の大半が行われる。準本拠地はほっともっとフィールド神戸。